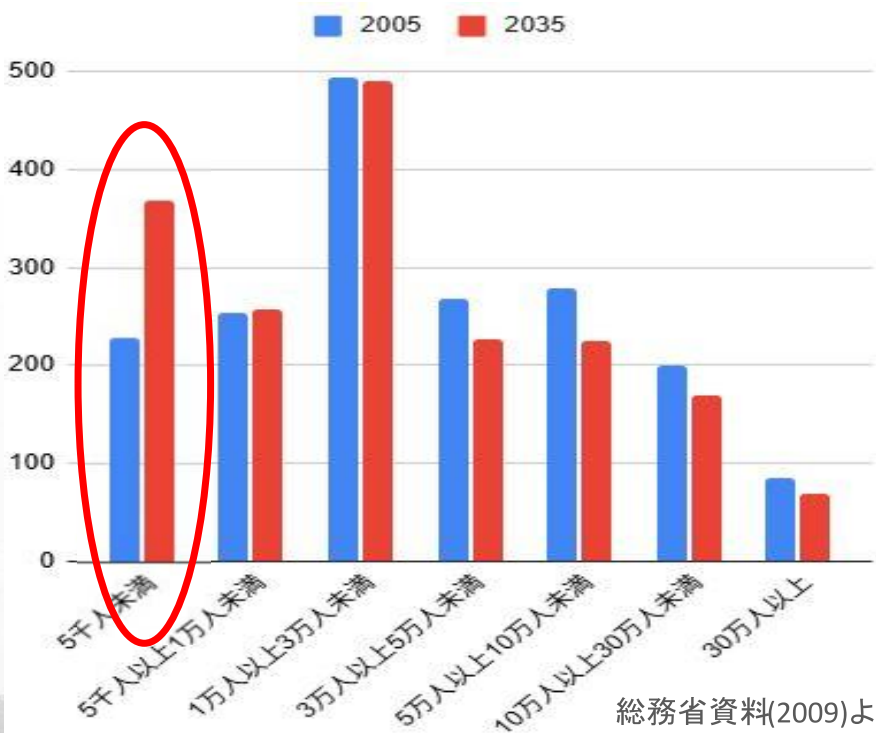




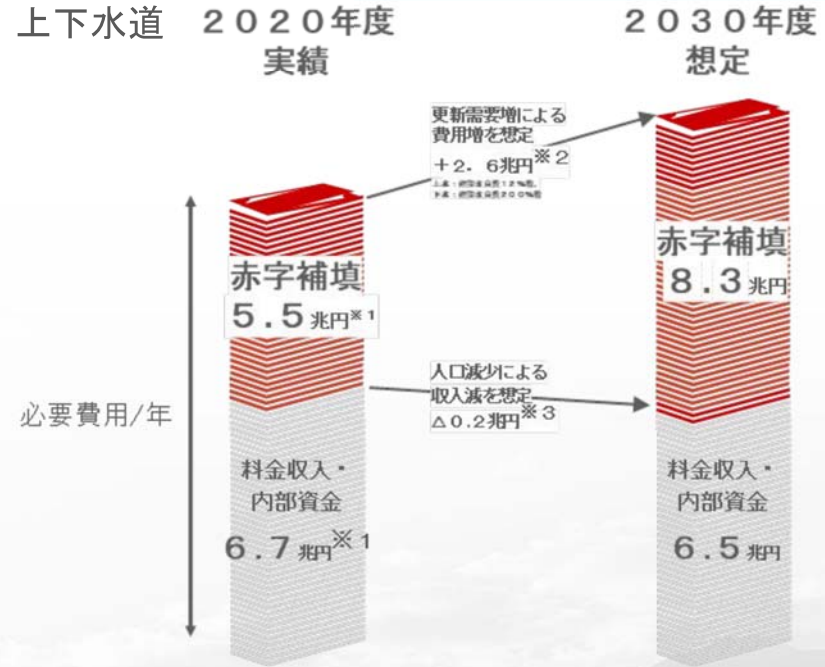
現状の課題

小規模水道にとって、より厳しい財政環境。小規模水道の再編時代へ

5000人以下の小規模自治体の増加



人口減少期の財政の構造課題



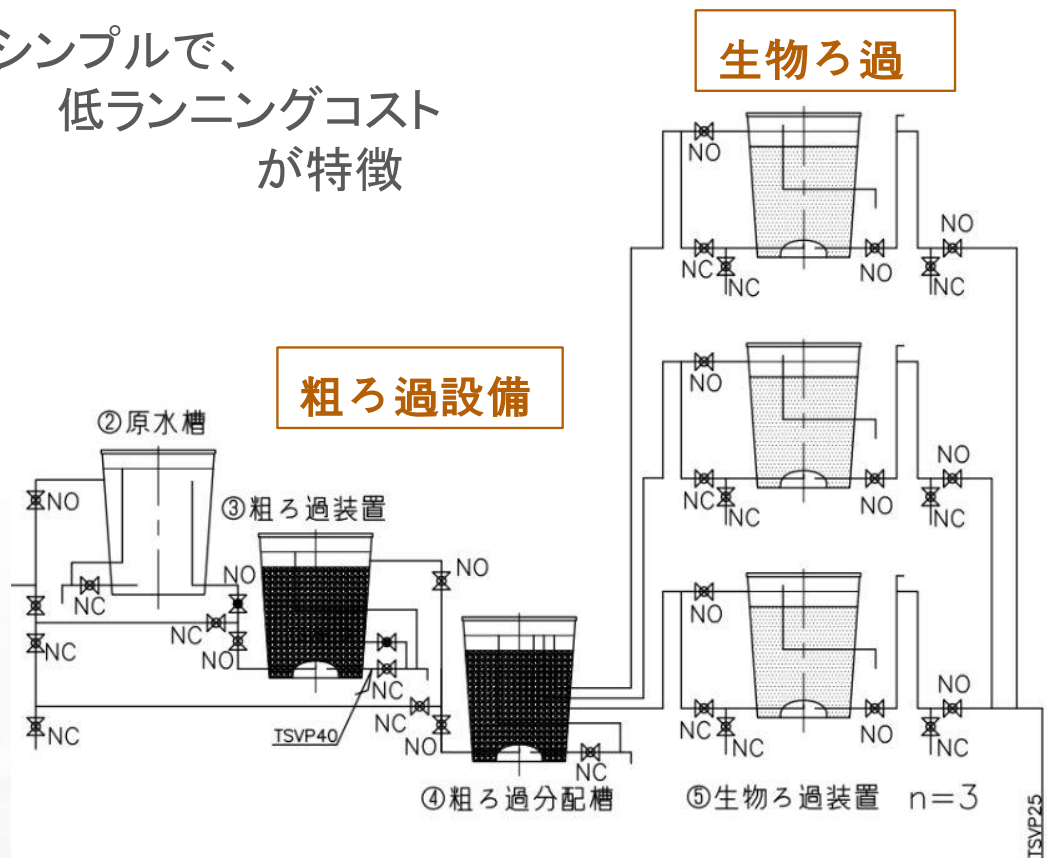
※1 総務省 令和2年度地方財政白書第一冊「地方自治体財政」の「上下水道事業の会計情報」より算出
 ※2 上下水道については、国土交通省「平成30年度国土計画」の「国土強靱化の推進」についてより、2020年代前半の水道施設を現況 100年間で更新した場合の費用比率を、2030年の資本支出（※1の割合、令和4年度地方財政白書より引用）に算付、算出
 ※3 上下水道については、国土交通省「下水道の維持管理」より、2022年から2021年の現況 100年間で経過する下水道管線長比を、20 30年の資本支出（※1の割合、令和4年度地方財政白書より引用）に算付、算出
 ※4 国土交通省 令和2年6月 国土の長所活用と持続可能な国土づくり、2020年時点人口と、2020年時点予測人口の比率より割合収入減を算出



主要製品(粗ろ過+生物ろ過)について

より詳細な説明

シンプルで、
低ランニングコスト
が特徴



粗ろ過設備

生物ろ過

強力な濁質除去

溶解成分の除去

「上向流粗ろ過」と「生物ろ過」が 小規模給水のカギ

1. 上向流粗ろ過で、大部分の濁質除去が可能
2. 生物ろ過で、溶解成分を除去
3. 地形を活用できれば、無動力(電力不要)の小規模水道を実現可能
4. 薬品添加は、次亜塩素酸ナトリウムのみ
5. おいしい水道の実現*

*1 高崎市若田浄水場はキリンビール工場のために建設された

個々の水源、規模に合わせた
最適な給水施設を計画